

抵抗は高まりつつある

政治革命の時代における社会主義の戦略

アメリカ民主主義的社会主義者（DSA）の戦略文書の要旨（2016年6月）

目次

I. 目下の課題と機会に関する分析

新自由主義の台頭

新自由主義への反抗的な応答

左翼と進歩的な運動が直面する課題

II. 民主主義的社会主義に関する私たちのビジョン

ラディカルな民主主義としての民主主義的社会主義

III. 私たちの戦略

諸分野が交差する多人種的な連合を構築する

労働の組織化

コミュニティの組織化

高等教育における組織化

選挙の組織化

環境保護運動における組織化

国際的な組織化

DSA と社会主義左派を構築する

2018年4月

編集・発行 民主主義的社会主義運動 理論政策委員会

【訳者解説】

以下に掲載するのは、「アメリカ民主主義的社会主義者 (Democratic Socialists of America: DSA)」という組織が 2016 年にまとめた、米国での社会主義的な変革を謳う綱領的な文書の翻訳である。

DSA は、ベトナム反戦運動のなかから 1973 年に結成された「民主主義的社會主義組織委員会 (DSOC)」と、学生運動およびフェミニズム運動を源泉にして 1971 年に生まれた「新アメリカ運動 (NAM)」とが 1982 年に合併することにより誕生した組織である。米国の民主党の内外に構成員を有している DSA は、「民主主義的社會主義者」を自称するバーニー・サンダースが 2016 年の民主党の大統領候補選挙において予想外の善戦を展開するうえでも重要な役割を演じたとされている。

DSA の構成員の数は、創設時の 1982 年には約 6000 名であったが、2016 年末にドナルド・トランプが米国大統領に当選したあとの 8 カ月間だけで若者を中心に約 13000 人が新たに加盟することにより、2017 年 7 月現在でおよそ 24000 名に達したという。DSA は、個人主義と自由主義のイデオロギーが深く根を張る米国において民主主義的社會主義の理念を広げ実現しようとする、米国では最大の社会主義組織であるとみなされている。

I. 目下の課題と機会に関する分析

2016 年は革新派と進歩派にとって、闘いの舞台そのものを取り換えるような変化の年であった。長期間にわたる停滞と意気喪失のあと、私たちはついに、生き生きとした強力な勢力としてふたたび舞台に登場しつつある。しかも私たちは、おそらく 1960 年代以降のいずれの時代よりも有利な政治状況に置かれている。第 2 次世界大戦終結後の約 30 年間、米国と非共産圏のヨーロッパは、堅実な経済成長、不平等の減少、社会サービスの拡大、労働者階級の力の増加を経験した。しかもそれは、人種とジェンダーと性の平等へと向かう画期的な進歩をともなうものであった。フランスやスウェーデンのような国々では労働運動と社会主義運動は、民主主義的社會主義へと向かう（おぼつかないものであっても）重要な進歩をなし遂げた。こうした収穫物は、米国のような国では人種やジェンダーにもとづく差別によって傷つけられていたにもかかわらず、20 世紀の労働者階級が有していた強さと生活保障の水準の高さを示している。

新自由主義の台頭

しかし、1970 年代から、新自由主義として知られるようになる運動のなかで、これらの国の経済エリートたちは、富裕層や企業の税金を引き下げ、職場においても投票においても民主主義的な意思決定を骨抜きにし、教育や社会保障といった重要な社会サービスへの支出を削減し、経済の多くの分野で産業への規制を緩和し、国境を越える資本の流れをつくり出すために、活発に動き始めた。これらの「改革」は、企業が雇用していた労働者と企業が操業していた地域社会とに対するあらゆる形態の説明責任を企業が実質的に回避することを可能にした。米国では、新自由主義の助けを借りながら社会サービスに対する人種差別的な攻撃がなされた。そこでは、福祉や貧困撲滅プログラムから給付を得ているアフリカ系アメリカ人とラテン系アメリカ人が、「福祉の受給に値しない人びと」として描写された。彼らの生活スタイルは、(白人の) 納税者が納めた税金によって賄われているとみなされたのである(福祉の受益者のうちで最大の集団を構成していたのは白人であったにもかかわらず)。

米国と欧州全体での新自由主義の成功の度合いは、左翼政党と労働組合の相対的な強さや弱さに応じて異なっていた。スウェーデンのような古くからの社会民主主義の砦においては勤労人民は、労働組合と左翼が歴史的に弱かった米国のような国の勤労人民よりも良好な暮らし向きを経験した。しかし、2000年代の初めまでに、第2次世界大戦後にこれらの国々において得られた歴史的な獲得物は劇的な後退を余儀なくされた。これは、ソ連と東欧において共産主義が崩壊し、中国の経済が1990年代の初めまでに市場化されたことと相まって、ほとんどの専門家や政治家が新自由主義の究極の勝利を宣言するという事態をもたらした。すなわち、「(自由な市場への) オルタナティブは存在しない」という呪文が、世界中の政策立案者たちの合言葉となったのだった。

新自由主義への反抗的な応答

この時期に左翼と進歩的な運動がこうむってきた深刻で持続的な敗北のせいで、アメリカとヨーロッパの社会主義者と進歩派の人びとは2000年代の半ばにいたるまで、新自由主義への抵抗の成功例を事実上ひとつも示すことができなかった。多くの人びとは注目の眼差しを南米へと転じた。南米はこのとき、民主主義的な左翼がもつ世界で唯一の政治的拠点であった。しかし、そのわずか数年後に、ヨーロッパと米国の状況は従来とはまったく異なる様相を示すようになった。すなわち、左翼は欧米においてもついに選挙区での支持を顕著に集めるようになり、創造的な社会運動の組織化を通じて政治的論争の座標軸を大幅に左へとずらしたのだった。選挙における若干の実例のみを挙げると、ギリシャでは2014年に左翼政党のシリザ(Syriza)が政権を獲得し、スペインでは2014年に緊縮財政への異議申し立て行動のなかから左翼政党であるポデモス(Podemos)がたち現われ、そのわずか2年後にはスペインで3番目に大きな政党となった。さらにいっそう驚くべきことに、2015年にはジェレミー・コービンが英国労働党の党首となり、2016年の米国での大統領選挙においてはバーニー・サンダースの「政治革命」が驚異的な成功をおさめた。

選挙におけるこれらの成功は、新世代の進歩的な社会運動の台頭と時期を同じくしていたし、たいていはそうした運動の台頭によって可能となったのだった。それらの運動は、資本主義、人種差別、性差別、異文化への嫌悪等のさまざまな形態の抑圧を徹底的に批判し、生態学的に持続可能で民主的かつ平等な未来を創造する取り組みに力を注いでいた。米国を例にとると、新自由主義への進歩派による反転攻勢は、2011年のオキュパイ運動、ならびにウィスコンシン州でのスコット・ウォーカー知事による反労働者攻撃への抵抗をもって、本格的に始まった。この反転攻勢は、不平等の問題を米国の政治的討論の中心的な議題へと高め、最近の運動のなかでは死活的に重要になっている新世代の活動家たちを育てたのだった。オキュパイ運動のあと、強力な新しい運動が台頭してきた。その若干の例として、残虐な移民政策に反対する運動(「夢をいなく人びと」)、恥ずかしいほどに低い連邦最低賃金に異議を突きつける運動(「15ドルのための闘い」)、警察による残虐行為の多発と構造的な人種差別とに抗議する運動(「黒人の命が重要だ」)、そして不平等を告発する運動(サンダースの「政治革命」)を挙げることができる。これらの運動は、資本主義と、私たちの社会における男性優位や人種差別とに関する真剣な議論のための空間を切り開いた。そうした空間は何十年にもわたって存在していなかったのであり、民主主義的社会主義の運動が成長するためのまたとない機会を提供してくれる。なぜなら、民主主義的社会主義の運動は、すべての闘争が相互に関連していることを、そして真の永続的な変化をもたらすために必要な改革は構造的な性質をもつことを強調するからである。

左翼と進歩的な運動が直面する課題

しかし、今日の進歩派の政治と左翼の政治の強みを誇張してはならないし、同様に、私たちの前に横たわっている課題の大きさを過小評価してはならない。社会運動の組織化の新たな波がおし寄せているように見える一方で、かつまた、とくに若い人びとがラディカルな選択肢をますます受け入れるようになっている一方で、左翼と進歩的な運動は依然として弱い。今日私たちが祝うことができるのは、重要で具体的な成果を達成したことよりもむしろ、政治的な突破の可能性を手にしていることのほうなのである。私たちの手持ちの資源の相対的な不足、米国の政治システムのもつ性質が私たちの行く手の上に設けている構造的な障壁、そして集団的な行動を弱体化させる個人主義イデオロギーの異常な力に加えて、革新派と進歩派の人びとは、人種差別的で反移民的な政治組織の台頭に直面している。そのことは、大統領選挙でのドナルド・トランプのキャンペーンにおいて実に劇的な仕方で明らかになった。99%もの多くの白人の生活の見通しが低下しつつある一方で、移動する人びとの波が米国に向かって着実に押し寄せ、アジア・アフリカ・ラテン系の人びと（people of color）が人口の多数を占めるようになるにつれて、この反動的な組織化の動きはますます深刻化する可能性が高い。

人種差別と反移民の政治は、何百万もの人びとの公民権を直に攻撃している（若干の例を挙げると、選挙権のはく奪、移民届のない労働者への嫌がらせや追放、ヘイト・クライムなど）が、それにとどまらず、労働者階級のあいだに分断をもち込むために経済的エリートたちが活用することのできる効果的な道具としても機能している（労働者階級は、異なる人種／民族のあいだで焚きつけられる恐怖や憎しみに焦点が定められるあまり、資本家階級に対する共通の経済的闘争をめぐって連帯の絆を結ぶことができなくなる）。人種や民族を超えて勤労人民のもろもろの闘いをつなぐことのできる強力な多人種連合が存在しないなら、人種差別や恐怖への訴えは、経済的にも社会的にも安全を脅かされている白人の有権者——とりわけ、フェミニズム運動の前進のせいでジェンダーにおける伝統的な優位の浸食に直面している男性の有権者——のあいだで影響力を獲得しつつあるであろう。そして、私たちの社会のなかの最も脆弱な人びとを支援するために絶対に必要なプログラムを拡大する可能性は、さらに減少するであろう（民主主義的社会主義の方向に向かってより野心的なプログラムを進める可能性は、なおさら減少するであろう）。

しかしながら、左翼と進歩派の運動がとる現在の形態は、右翼による人種差別と反移民の政治がもたらす災難に対抗するために必要な多人種的な組織と連合を構築するうえでは十分ではない。歴史的にも左翼は、多くの人びとの最善の意図にもかかわらず、白人の活動家（しばしば中産階級の男性）によって支配されつつづけている。（DSAをふくむ）左翼の組織は概して、アジア・アフリカ・ラテン系の人びとよりも、白人の労働者階級や中産階級に属する個人の関心、願望、文化的素養を反映している。多人種的な革新派の組織と、革新派が重要な位置を占める多人種の連合とが発展するのを制限するうえで重要な役割を果たしてきた要素は、ほかにもいくつかある。たとえば、労働者階級の活動家や貧しい活動家が政治的組織化の取り組みへ参加することをしばしば制約してきた構造的な障壁（時間や活力や経済的資源の不足など）、活動家組織の人員構成に典型的に反映される米国社会の人種隔離（racial segregation）、階級に関するあらゆる議論を割愛した人種についての個人主義的な討議の蔓延が挙げられる。

革新派と進歩派はまた、思わずひるんでしまうような一連のさらなる課題にも直面している。すなわち、私たちは、妊娠中絶に関する女性の権利を擁護しなければならないし、能力主義や「女性が一步を踏み出す（leaning-in）」といったレトリックによって勤労女性たちと専門職の女性たちを新自由主義がますます分

裂させているにもかかわらず、男性優位の社会に広範囲にわたって残るジェンダーの不平等に立ち向かわなければならない。私たちは、米国が世界中で展開しているような、しばしば違法であり概して逆効果しか生まない軍事的冒険と「民主主義の奨励」の試みを縮小しなければならない。私たちは、この国の繁栄に大いに貢献しているにもかかわらず、国外退去をつねに恐れながら生活するのを強いられ、市民権にもとづく政治的・経済的便益を享受していない何百万人も移民が市民権を得られるようにするために、闘わなければならない。私たちは、多様でしばしば対立する物質的な利害関心を持ち、ますますグローバルになっていく労働者階級のあいだで、国境を越えるいっそう深い絆を築く方法を見いださなければならない。そして、行動しない場合に引き起こされるであろう深刻な帰結をかんがみるならおそらく最も重要な課題なのであるが、私たちは、人為的な気候変動の影響を是正するためのめざましい行動を米国政府に押しつけることができるような進歩派の連合を形成しなければならない。

これらの試練にもかかわらず、反転攻勢を仕かけ、明瞭な反資本主義の政治に米国で着手する機会が、目下のところ存在しないわけではない。残されている最も困難な——そして最も重要な——問題は、来る数年間に民主主義的社会主義の政治を全国の農村地域、街、都市、州においてひとかどの勢力にまでいかにして鍛えあげるかという問題である。しかしながら、この問題に取り組む前に私たちはまず、それに劣らぬほど根本的な次の問いに目を向けることにする。すなわち、民主主義的社会主義とは何か、そして、この一見すると抽象的であるかに見える理想のなかに私たちがより良くより平等でより人間的な未来への希望を見いだすのはなぜか、という問いである。

II. 民主主義的社会主義に関する私たちのビジョン

民主主義的社会主義に関する私たちのビジョンは、必然的に部分的かつ思弁的であり、民主主義的社会主義社会の青写真となることを意図するものではけっしてない。反対に、私たちが望む未来社会の具体的な輪郭は、私たちによってではなく、未来社会を生きる人びとによって民主的に決定されることになるだろう。さらに、DSAの構成員たちは、このビジョンの特定の側面については不同意を表明するであろうし、そうすべきなのである。それにもかかわらず私たちは、第1に社会主義に関する私たちのビジョンが過去の失敗したモデルとどのように違うのかについて人びとの誤解を取り除くために、第2に私たちのビジョンを自由主義や進歩派のビジョンから区別するものが何であるのかに関心をいただいているDSAの将来的な構成員の情熱と想像力をかきたてるために、そして第3に「オルタナティブはない」というしばしば圧倒的な論理に抗して私たちの全国的な政治的討議の語彙が広がっていくのをうながすために、私たちのビジョンを提示する。歴史が何度も示してきたように、主流の政治的討議の座標軸を左へとずらし、そうすることにより「可能なものの政治 (politics of possible)」を拡張しようとして休みなく働きつづける先駆者を欠くなら、社会は人間的解放のための潜在力を完全に生かすことができないのである。

ラディカルな民主主義としての民主主義的社会主義

民主主義的社会主義をめざす闘いはラディカルな民主主義をめざす闘いと同一であると、DSAは考えている。私たちはラディカルな民主主義を、すべての人が自分の生活のあらゆる側面を可能なかぎり最大限に決定しうる自由であると理解している。私たちのビジョンが意味するところは、生活のあらゆる領域の、と

りわけ経済のラディカルな民主化にほかならない。資本主義のもとで私たちは、たいていの場合説明責任を負わない少数の企業幹部たちの集団が、何千もの人びとで構成されている会社の経営に関するすべての基本的な決定を下すべきであることを自明視させられている。この集団は、私たちが起きている時間のうちの大部分を私たちがどのように使うべきかを決定する権力や、著しく恣意的なものであってもなんらかの理由を付けるなら誰をも解雇しうる権利を握っている。こうした権威主義的な体制は、民主主義的社会主義のもとでは経済的民主主義へと置き換えられるであろう。これはつまり、民主主義が政治的役職の選挙という枠を超えて拡大し、すべての企業が、それを構成している労働者と企業の営業している地域社会とによって民主的に運営されるようになることを意味している。——住宅、公益事業、重工業などの——非常に大規模で戦略的に重要な経済部門は、市場の外での民主的な計画化の対象となる。その一方で、労働者が所有し労働者が運営する諸企業からなる市場セクターが、多くの消費財を生産し分配するために発展していくであろう。この社会では、新しい技術や事業への大規模な投資は、株主価値ではなく公益を最大化することを根拠にして行なわれるであろう。重要なのは、生態学的な持続可能性と地球上の生命の存続とを保証するために、再生可能エネルギーと効率的な技術への投資が優先されるということである。

民主主義的社会主義の社会はまた、万人に対して市民権の平等を確保するために幅広い社会的諸権利を保障するであろう。保健、育児、(幼稚園に入る前の段階から高等教育にいたるまでの)教育、避難所、交通などの重要なサービスは、必要に応じて無料で全員に公的に提供される。さらに、市民権を完全に享受することが労働市場における浮き沈みに左右されないようにするために、各人は普遍的なベーシック・インカムをも受け取るであろう。それはすなわち、雇用上の地位にかかわらず、社会のすべての成員が受け取る基本的な俸給である。最後に、1週の労働時間は徐々に短縮されるとともに休暇の時間が拡大され、社会のすべての人が、経済活動に必要な労働の量を全体としてますます減少させる(そして、仕事を見つけない人にはそうすることを可能にする)効率的な技術の恩恵を受けられるようになるだろう。

経済的民主主義は政治的領域において、(私たちがもつ現在の制度である)代表制民主主義を徹底的に見直したうえでこれを直接民主主義へと結びつける新しい制度によって補われるであろう。この新しい制度において諸個人は、彼らに影響をおよぼす政治的意思決定に直接的に参加する。この制度では、上院(人口の非常に少ない州が人口の最も多い州と同じ水準の代表を得るという、きわめて非代表制的な政体)が廃止され、比例代表制度が確立され、議会は有権者の政治的意志を実際に反映するようになる。民主主義的社会主義の政府は、選出された公務員が彼らの任期中に説明責任を果たすようにするための新たな住民投票とリコールの仕組みを導入するであろう。そして、地方参加型制度の広範なシステムが設立され、諸個人は選挙以外の政治的な意思決定において直に声を発することを保証されるであろう。そうした地方参加型の制度としては、政府によるさまざまなサービスにかかわる市民役員会、政府のサービスを受ける人びとのための(全国、州、および地方のレベルでの)プログラム評議会、万人に開放され予算に関する決定を下す権限をもつ市町村および州レベルの市民集会が挙げられる(これは、いま世界中で活用されている参加型予算編成プロセスによく似ている)。最後に、現在くり返し侵害されている個人の市民的および政治的諸権利(言論・集会の自由、投票権など)は強化され、真に自由な報道と民主的に運営されるマスメディアの発展に対しては公的な資源が振り向けられるであろう。

DSAは、経済的搾取が他のあらゆる形態の抑圧に影響をおよぼしており、したがってラディカルな経済的・社会的民主主義はほとんどの人の自己決定能力を劇的に向上させると考えているが、人種、ジェンダー、

性的指向といった他の抑圧の形態を経済的搾取に還元することができるとは考えていない。資本主義体制に捕らえられているすべての勤労人民の連帯は、強力な社会主義運動にとっての前提条件であるかもしれないが、ラディカルな民主主義としての社会主義は、単独の経済的階級の解放を超える事業である。民主主義的社会主義のプロジェクトはまた、法律、文化、社会において人びとの自己決定能力を制限している広範囲にわたる抑圧に取り組むことを必然的にもなっている。

いくつかの例を挙げると、資本主義のもとでは不釣り合いに女性——とくにアフリカ・アジア・ラテン系の女性や移民の女性——に対してゆだねられている保育・介護の仕事は、普遍的なデイケアと高齢者介護、ならびに有給の家族休暇によって公的にサポートされるであろう。法の面では、〔民主主義的社会主義の社会では〕すべての市民が平等な諸権利を有することになるであろうが、これは、何百万人も市民が自らの議会代表を選ぶことができない今日の現実（コロンビア特別区、プエルトリコ、海外領土、そして先住民の現実を見よ）とは対照をなしている。法制度の面では、人種差別的で不平等な現行の司法制度は、警察と裁判所の決定を（実効的な権限をあたえられた）市民が見直すことのできる再審査委員会を備えた制度へと置き換えられるであろう。現在は、行動を規制するために恥ずべき仕方で刑務所を使用することが、不釣り合いにもアジア・アフリカ・ラテン系の人びとや貧しい人びとのコミュニティに対して集中的に行なわれている。こうしたやり方は、広範囲の法律違反（とくに非暴力的な薬物関連の軽罪）を犯罪の構成要件から除外し、深刻な犯罪をおかした人びとであってもそのあと社会復帰の道を見いだすのを手助けするために、被害者への十全なサービスを〔報復的ではない〕損害復元的な司法、精神面での保健、さまざまな仕方でのカウンセリングに結びつけるような制度へと置き換えられるであろう。最後に、人種や民族、性やジェンダーにもとづく抑圧は、社会主義社会においても存続するかもしれない。したがって、白人であることに、男性であることに、そして異性愛の正常性に根拠を置くもろもろの特権を解体するための幅広いプログラムが開発されなければならないし、職場や社会組織における差別禁止政策が強化されなければならない。

民主主義的社会主義は、ジェンダーや人種や性的指向などに由来する抑圧の遺産に取り組むこと以外にも、数多くの新しい芸術的習慣や生活スタイルが花開くような文化のルネサンスをもたらすであろう。より多くの自由な時間、経済的搾取がもたらす気まぐれな運命からの保護、敬意と連帯の規範の深化にともない、諸個人はみな、相互尊重の原則と搾取や抑圧の不在とによってのみ制限される個人としての発展の仕方を、初めて自由に選ぶことができるようになるであろう。人種やジェンダーにもとづくアイデンティティは、抑圧の諸制度に起源を有しているにもかかわらず、もはや社会から個人に対して押しつけられることはないし、個人のアイデンティティを形成するうえで積極的な役割を果たすようになるであろう。

しかし、他のあらゆる形態の社会と同様に、民主主義的社会主義の社会といえども社会の完全な調和を生み出すことができないという点をつねに思い起こすべきであろう。そうした社会はいつも、異なる諸集団の競合する権利主張のなかで進路を定めなければならないであろうし、民主主義的政治制度はつねにこのような紛争を仲裁し調停する必要があるだろう。つまり、民主主義的社会主義は、かつて多くの社会主義者が想像していたようなユートピアではないであろう。それでもなお、民主主義的社会主義の社会が到達する成果は、人類の歴史のなかにも最も偉大な進歩を記すことになるであろう。戦争に代わって平和が、競争に代わって協力が、搾取に代わって平等が、汚染に代わって持続可能性が、そして支配の代わりに自由が訪れるであろう。人生にはまだ喜びとともに悲しみがあり、企図の失敗や、報いを得られない愛も存在しつづけるだろう。だがしかし、民主主義的社会主義においては、私たちが統制することのできない諸制度によって、社

会の大多数の人びとに不必要な苦しみがか課されることは、もはやないであろう。

III. 私たちの戦略

上記のようなビジョンを念頭に置きながら、私たちは最後に、これからの数年と数十年にわたり、解放の羅針を民主主義的社会主義のほうへ傾けるための DSA の戦略の概要に目を向けることにする。私たちは、民主主義的社会主義が資本主義への人道的で民主主義的な唯一のオルタナティブだと考えている。私たちはしかし、私たちがいま有している資源が限られていることを考慮に入れて、社会主義の理想と価値を現実味のある政治戦略へと転換するための方法を慎重に考えなければならない。私たちが直面している課題の規模と範囲、そして私たちの組織の民主主義的で分散的な性質を前提にするなら、私たちの組織的な資源のすべてを投入することのできる戦略的な特効薬や、すべてを包括する単一のキャンペーンなど存在しない。むしろ——現在の政治的・経済的状况に関する上述の分析をふまえるなら——、私たちの戦略は短期的には、相互に関連するいくつもの戦線において闘いを進め、中期的には、これらの闘いで得られた利益を蓄積してより構造的で攻勢的な変化を生み出し、最終的には、政治権力を獲得して社会主義への移行のプロセスを開始するために単一の大衆的な社会主義政党の力を、あるいは革新派と進歩派の諸政党の連合の力を活用するという諸段階によって構成される。

私たちの戦略は短期的には、以下に詳述する一連のプロジェクトに同時に取り組むことから成り立っている（それぞれのプロジェクトに置かれる強調の度合いは、地域ごとの条件によって決まるであろう）。しかし、DSA の特定の支部が関与している個別の（諸）闘争にかかわらず、私たちはすべてのケースにおいて、私たちの組織が白人（とくに男性）の活動家に対して示してきた歴史的な偏重を克服することを重視している。私たちはこのことを、貧しい労働者階級の女性やアフリカ系・ラテン系の人びとを代表する諸団体とより深い関係を築くことによって、ひいては、人種差別に反対する行動の組織化の重要性や、人を喜んで迎える包摂的な DSA の支部を育成することの重要性について構成員を教育していく仕事に重要な組織的資源を投入することによって、成し遂げる。以下は、DSA が今後の数年間に参加する最も重要な闘いのまとめである（このリストは DSA の支部で取り込まれるすべての活動を網羅するものではない。これ以外の取り組みの詳細については、DSA の戦略文書を参照されたい）。

諸分野が交差する多人種的な連合を構築する

資本主義のもとで生じる抑圧のさまざまな諸形態の相互関係について DSA が行なった分析が示唆するところによれば、資本主義に対して効果的に抵抗することのできる民主主義的社会主義の唯一の戦略は、反人種差別の運動、フェミニズム運動、LGBTQ の運動、労働運動、能力主義に反対する運動、年齢差別に反対する運動等々を、あたかも「短点を接続する (connecting the dots)」かのようにして結びつける戦略にほかならない。私たちは、これらの闘争の各々が互いに補強しあっていると考えており、1つの闘争の成功は最終的には他の闘争の成功如何にかかっていると信じている。さらに、資本家たちは労働者階級のあいだでの分裂を維持するために、白人至上主義に訴えかけるとともに、ジェンダーと人種とが交差する地点において生じる緊張を一貫して利用してきた。これらの分裂を克服し、労働者階級のあいだでより深い連帯を築くためには、異性愛志向で、白人の男性で、英語を話し、往々にして大卒である構成員によって大半が占めら

れている DSA のような社会主義組織が、人種上の正義を実現する仕事を優先し、人種やジェンダーや階級や性による抑圧が交差する諸闘争の只中で活発な組織化を進めることが不可欠である。私たちはそれを謙虚に行なわなければならないし、地域社会の貧しい人びとや労働者階級を組織するとともにそうした人びと自身が主導しているような団体のなかから私たちのリーダーシップを発揮しなければならない。

DSA の各支部で取り組まれる連合形成のための具体的な作業は、地域の状況に応じて異なるであろう。その作業はしかし、若干の例を挙げるなら、普遍的な医療やより質の高い公教育のための闘いと、刑務所の拡張、警察による残虐行為、移民登録をしていない労働者への差別的な処遇に反対する闘争とをふくむことになるだろう。DSA の支部はたいていの場合、同等の重要性を有するいくつかのキャンペーンのなかから、彼らが自らの組織的な資源を割くべきものを選択することになるであろう。各支部はこのような場合、当該のキャンペーンが地域社会の多くの住民にとって重要な問題を扱っているかどうか、キャンペーンに関与する人びとが民主主義的社会主義の政治に対してどれほどの関心を寄せるかなどを考慮に入れながら、取り組むべきキャンペーンを選ばなければならないであろう。

労働の組織化

資本主義における基本的な社会関係は、労働者と資本家（被雇用者と雇用主）のあいだの関係であり、資本家による労働者の搾取こそが、資本主義体制における収益性の主要な源泉である。この関係は、組織された労働者階級に大いなる潜在的な力をあたえる。そして、この関係によってこそ、勤労人民が自らを組織することが反資本主義闘争における不可欠の武器になるのである。さらに、労働を組織することは DSA の構成員に、労働運動の再興に向けて活動するチャンスにあたえてくれるだけでなく、DSA を構築するチャンスをもあたえてくれる。米国の歴史が示しているように、社会主義運動がその成員を獲得してきた最良の源泉は、経験豊富にして急進的になった労働者であるし、同様に、職場における最良の組織者は社会主義者である。これらの理由から私たちは、労働組合運動と、より新しく旧来型ではない労働者の自己組織化（労働者センターなど）とを、私たちの優先課題の前面と中心にすえなければならない。この仕事は、企業による何十年もの絶え間ない攻撃のあと、労働者の組織が歴史的な低迷状態にある今日、とくに必要である。

来る数年間の労働運動において DSA が取り組むべき最も重要な課題は、組合員としての私たち個人々の能力を高めることにあるだろう。私たちは、現場における組織者として活動させるために私たちの構成員に対して経済の特定分野へ就職するよう指示することはできない。私たちはしかし、現場での活動家になるメンバーを、そして職場代表や地域の労働組合の役員になるメンバーを励まし支援することができるし、DSA の多くの構成員が働いているセクター、たとえば医療、社会サービス、教育といったセクターにおいて対話と協力を奨励することができる。組合は良いスタッフや有給の組織者を必要とするが、労働運動の再興は、他の何にもまして現場の労働者自身の闘いの成否にかかっている。

コミュニティの組織化

職場での組織化は依然として不可欠であるとしても、職場の縮小傾向、雇用の不安定化、そして新自由主義がもたらす反社会的な傾向は、労働の組織化への補完物として不可欠なコミュニティの組織化がもつ重要性を指し示している。DSA のほとんどの支部は大都市圏を基礎にして編成されてきた。DSA の構成員が近隣地区においても組織化することを止めるべき理由など、何ひとつない。彼らは近隣住民に話しかけ、コミ

コミュニティが直面している課題のうちでどれが急を要するものなのか(たとえば、それは借家人の権利なのか、警察の残虐行為なのか、それとも劣悪で資金不足の公共サービスなのか)を決定し、それらの課題をめぐって戦略的に組織化を進めるべきである。コミュニティの組織化は、コミュニティとの強固で持続的な関係を発展させるうえでとくに効果的な手段であるが、これはしばしば DSA の支部に欠けている仕事であった。そのような仕事は、私たちの活動家が多様な背景の人びととつながり、それによってより幅広い見解を取り入れ、この国の勤労人民をよりよく代表する組織を創造するうえでの助けになるであろう。

高等教育における組織化

州議会が毎年、公立の単科大学や総合大学の資金を削減しているため、授業料の劇的な値上げと教室の収容定員の膨張が起きている。大学の管理者たちは州の職員を、民営化された食糧産業や家事産業で搾取されてきた労働者へ置き換えてきた。同時に彼らは、フルタイムで終身雇用の、あるいは終身雇用につながる地位にある教員を、大学院生や、給与の低い非常勤の教授(雇用保障がなく、通常はもろもろの手当でもない教授)に置き換えることでもって教育を提供している。学生は大量の借金をかかえて卒業し、その学位が大学卒業後に適切な雇用を確保する可能性はますます低くなっている。高等教育におけるこのような危機は、一方では米国における手ごろな学費負担による民主主義的な高等教育制度の崩壊をもたらすことがありうるし、他方では民主主義的な制度をとり戻そうとする学生、職員、教員、地域社会の強力な運動につながるかもしれない。私たちは、後者の選択肢が可能であり、そうした運動の発展をうながすうえで DSA が重要な役割を果たすことができると考えている。

無償の公的な高等教育は、社会主義の考え方を普及させ、将来的にはさらに劇的な改革を可能にするような、私たちが「転換的」改革(“transformative” reform)と呼ぶものの重要な1例である。無償の公的な高等教育は、普遍的な公共財となるべきものを市場から奪い取って民主主義的な統制のもとに置き、それへのアクセスをすべての市民の権利として保障し、富裕者と企業に政府の歳入の公平な負担分を支払わせる真の累進課税制度によって高等教育の費用を賄うことを意味する。このようなキャンペーンは、それがもたらす固有の利益のほかにも、社会主義の政治が望ましいものであり達成可能なものであることを人びとに示すであろう。無償の公的な高等教育を獲得することは、民主主義的社会主義の政治を米国のより広範な公民にとってより魅力的なものにするための重要な一歩となりうるであろう。

選挙の組織化

私たちの目標を達成するには、草の根における組織化と「路上での熱気(street heat)」が必要だが、同時にまた、目標を実現するための政治的役職の保持者が数多く必要となる。選挙それ自体は、社会主義への道筋を確立するものでないのはもちろん、政治、経済、社会の主要な改革をもたらすものでもない。しかし、私たちが選挙プロセスに参加しないまま米国における私たちの目標をどのようにして達成することができるのかを想像するのは、困難である。短期的には、私たちが選挙活動に参加しなければならないいくつかの重要な理由がある。それはすなわち、既存の諸権利を守るためであり、社会的・経済的正義を求める新しい要求を提示することで公共の討論を変え、そうすることでよりいっそう根本的な構造的改革を軌道に乗せるための通路を開拓するためであり、新しい構成員を DSA へと引きつけ、それによって組織としての能力を高めるためであり、選挙以外の活動を構築し維持するためである。私たちの選挙活動の性質は、地方の政治

的狀況に応じて異なるであろう。そうした活動にはしかし、当選をめざす進歩派や社会主義の候補者を支援することがふくまれるし、それは通常、民主党の大統領候補の予備選挙や総選挙における民主党候補への支援という形態をとるが、民主党以外の独立した社会主義者やその他の第三候補を支持することもふくまれる。中・長期的には、(DSA の前身組織のひとつである民主主義的社会主義組織委員会が、そして DSA 自身が、1970 年代と 1980 年代にそうすることができたように) 私たち自身の候補者を立てるうえで必要な組織力を築くために、民主党の内外においてより大きな社会主義の選挙連合を建設するために、そして最終的には政治と経済の社会主義的な改革を支持する多数派の選挙連合を創設するために、私たちは活動する。

環境保護運動における組織化

私たちは、最も脆弱な人びとや文化や生態系に対してグローバル資本主義がもたらしている荒廃に反対する気候的正義 (climate justice) の運動にも参加する。この運動への私たちの関与は、化石燃料や森林資源の略奪と、私たちの空気や水の汚染による生命破壊とに反対する先住民の闘いへの連携を私たちに求める。それはまた、先進諸国によって大気中に注ぎ込まれた炭素が引き起こす暴風、洪水、飢饉に一方的にさらされているグローバルな南のコミュニティに対するグローバルな北の諸国の無頓着な態度に反対することを、私たちに要求している。

気候的正義のための組織化は DSA の支部においてはしばしば、化石燃料を扱う資本から制度的に離脱するためのキャンペーン、環境保護を弱体化させる 1 国の政策と国際協定とに対する抗議や組織的な不同意といった形態をとるであろう。DSA の構成員は、他者に対して開かれた態度をとる社会主義者として組織化を進めることで、広い支持層をもつ「緑の」大義を反資本主義の「赤い」運動の旗印のもとで組織する機会を得ることができる。気候的正義の運動への参加はまた、DSA がその国際主義的な政策を強調することを可能にする。なぜなら、この運動は、社会経済生活への企業の支配に反対し、労働・人権・環境の分野でのグローバルな標準を向上させる民主主義的な国際秩序を支持する闘いの一部をなしているからである。

国際的な組織化

グローバル化された経済において、国際連帯に対する社会主義者のコミットメントは単なる道徳的な命令ではなく、実践上の必然である。DSA は、「底辺へ向かう競争」という企業の政策に対抗して、労働・環境・人権に関するグローバルな標準を引き上げるために闘っている世界中の運動と連帯する。こうした連帯は多くの場合、(企業寄りの「自由貿易協定」をふくむ) 非民主的な国際機関を支持し、米国の政府と経済的権益を支えている権威主義体制をしばしば軍事介入によって後押しするような、自国政府の外交政策への反対という形態をとるであろう。

DSA と社会主義左派を構築する

進歩的な社会運動を構築するうえで DSA がその役割をきちんと果たすことは、私たちの仕事にとって不可欠である。すなわち、この仕事から私たちが組織として何を獲得するかとは無関係に、進歩的な社会運動の構築それ自体が目的なのである。これに加えて、連合を形成する私たちの活動とコミュニティの組織化とを通じて、私たちは組織化の貴重なスキルを学び、私たちが取り組んでいる仕事を向上させる無数の方法を発見する。しかし、この仕事を効果的に行なうために、かつまた、時間をかけて強力なひとつの政治勢力に

成長していくことを私たちが望んでいる幅広い独立した社会主義の諸組織を構築するために、私たちは米国における社会主義運動の隊列を劇的に増加させる必要がある。DSA は 2010 年以来、組織を大幅に拡大してきたが、著しい成長の余地はまだ残されている。そのことは、数え切れないほど多くの若者を民主主義的社会主義の考えに初めて触れさせたサンダースの「政治革命」のあとであるだけになおさら当てはまる。この可能性を活かすために DSA の支部は、私たちの活動家と構成員の基盤を拡大するのに役立つさまざまな戦術を用いるであろう。第 1 に、私たちは、連合の形成、公教育、コミュニティの組織化といった活動において、資本主義への批判と民主主義的社会主義の積極的なビジョンとを広めることに重点を置く。私たちはまた、個人指導、技能訓練、教育プログラムをとおして新しいリーダーを育成することに、より多くの資源を投入する。最後に、私たちは、私たちの組織活動の進展状況を定期的かつ集中的に評価するとともに、さまざまな背景をもつ人びとのなかから新しい構成員を獲得することにつねに努める。

これら一連の闘いの成功は、(銀行業、自動車産業などの) 戦略的産業の国有化や、資本家の資産を買収して労働者が所有し運営する大規模な企業を設立するための労働者管理による投資ファンドの創設といった、資本主義体制の力を根本的に掘り崩す(しばしば「非改良主義的改革」と呼ばれる) 諸改革を通じて、民主主義的社会主義への移行について真剣に語ることでできる時期へと導いていくはずである。私たちがより控えめな(しかし野心的な) 短期の目標を達成する前に、上述のような長期目標について議論し始めるのは時期尚早だと思われるかもしれない。しかし、短期、中期、および長期の目標に関する明確なビジョンと、闘争の各段階から次の段階へとどのように移行するかについての信頼できる説明(この問題に関するもっと詳細な説明は DSA の戦略文書に見いだされる) とを私たちが発展させることは、きわめて重要である。私たちがどこに向かおうとしているのかを明確にしていなければ、私たちの社会主義的アイデンティティの重要性を見失い、短期の戦術的利益のために戦略上の誤りを犯すという危険が生じる。

近い将来における私たちの主要なねらいは、活発で独立した民主主義的社会主義の運動を構築し、あらゆるレベルで政治的な力を行使することのできる進歩的な連合が形成されるのを手助けすることに置かれるであろう。しかし、明けても暮れても私たちがつねにかかわっている自由と平等のための多くの闘いを結びつける指針となる民主主義的社会主義のビジョンを、私たちは決して見失ってはならないのである。

DSA に加入しよう！

経済と社会はいずれも、少数者の利潤を産むためにではなく人間の欲求を充足させるために民主主義的に運営されるべきだと、DSA は考えている。DSA は、構成員が資金を拠出し構成員が運営する組織である。もっと多くのことを知って私たちの組織に加入するために、dsausa.org のウェブサイトをご覧ください。

Democratic Socialists of America

facebook.com/demsocialists

twitter: @demsocialists